

昭和19年12月7日東海地方震災調査報告

主トシテ家屋被害ノ分布ヨリ見

タル對震區土計畫ノ問題ニ就テ

地震研究所 宮村 三

舊臘7日東海近畿ノ各地ヲ襲ツタ地震ハ、ソノ規模ニ於イテカノ
安政ノ地震以來ノモノデアリ、ソノ激シサモ關東地震、鳥取地震ニ
並ブ程デ、熊野灘沿岸其他ノ津波ニヨル被害ニ相當ナモノデアツタ
ガ、特ニ戰時下生産運輸ノ中絶ニ多大ノ影響ヲ及シタ點深ク世人ノ
關心ヲ惹イタ。イカニ激シイ敵機ノ襲撃モ一時ニコレダケノ廣範圍
ニワタツテ破壊ヲ行フコトハデキナイノデアツテ、今更ナガラ自然
ノ力ノオソルベキヲ痛感シタノデアツタガ、シカシ自然自體ハ決シ
テ敵機ノ如ク破壊ヲ目的トシテキルワケデハナイノデアルカラ、モ
シ我々ガソノ法則ヲワキマヘテ對處スルナラバ、容易ニソノ災害ヲ
最小限ニ防止シ得ルノデアツテ、調査ノ結果モ如實ニコノコトヲ示
シテキルノデアル。即チ二旬餘ニワタリ一部ノ震災地ヲ踏査シ、又
官民各位ノ御協力ニヨリ種々ノ資料ヲ蒐集シエタ結果、トリアヘズ
コ、ニ特ニ國土計畫上重要ト思ハレル點ニツイテノ若干ノ結論ヲ推
ベテ各方面ノ參考ニ供スル次第デアル。尙今後整理ヲス、メ、實地
踏査モタリカヘシ、既往ノ地震調査ノ諸結果トモ比較對照シテ對震
國土計畫ノ基礎研究ヲスミヤカニ完成シムイツモリテアル。ナホ先
年長野地方ノ地震以來、各縣民衆各ノ協力ニヨル踏査調査ヲ行ヒ、

息取地震及び今回ノ地震等ニテ殆ド阪東以西ニツイテハ一應ノ資料
ガ集メラレ本學理部地理物理學教室佐藤理學士ノ協力ニヨリ、全
國的ナ對震地盤調査ガ進メラレテキルコトヲツケ加ヘテオキタイ。
今後トモ關係各方面ノ協力ヲオ願ヒスル次第デアル。

サテソモソモ震災防止ノ對策ハ、地震ソノモノノ科學的研究ヲ基
礎トシテハナラナイコト勿論デアルガ、タトヘ學術的ニ明ラカ
ニナツタヤトモ、實地ニ行ハレ得ナケレバ無意味ナアリ、スデニ、
耐震構造ノ理論モ地盤ノ良否ニ關スル學說モ數多クアルノデアルガ、
實際ニハ殆ド採用サレテナイ。ソシテコレハ目先キノコトニ追ハ
レル實際家、科學ニウトイ世間ノ非デアルトトモニ、理論ヲバ實際
化シウル形ニシテ提供スルコトヲオコタツテキル學者ノ側ノ責任デ
モアリ、例ラ地盤ノ問題ニトツテミテモ、軟弱地盤ハ危險デアルト
イフコトハワカツテハキルガ、ドコハ危險率ガドノ程度、ドコハド
ノ程度トイフコトガ與ヘラレテキナケレバ實際ニハ適用シニクイノ
デアツテ、實ハコノ具體的場所ニカ、ハル問題ガ學問トシテノ地學
ニツイテモ重要ナ根本問題ナノデアリ、之ニツイテハ又適當ナ場所
ニ於イテ論ズル機會ガアルコトト思フガ、トニカク我々ハ今回ノ震
災ヲ秘トシテ國策ヘノ科學ノ滲透ヲ強力ニオシス、メナクテハナラ
ナイト思ツテキル。現在ノ地震學ノ程度、國家ノカトソノ文化意志
ヲ以テテハ、地震ノ勢力ノ利用ハ勿論、ソノ發生ノ統御予知等ハ一
寸餘ニハ實現困難デアツテ、防災ノ主要ハマツ耐震構造ト對立地

トノ二ツニナルノデアル。ソシテコノ兩者トモヲ無視シタモノ。ミ
ガ、イツノ地震ニ於イテモ手ヒドイ損害ヲ蒙ツテキルノデアリ、今
回ノ震災ニ於テモ、當然避ケウベキ災害ヲタゞ無思慮無計畫ノタメ
ニウケテキル所ガ多イノデハナイカトイフ感ガ深イノデアル。目下
急速ニ具体化シツ、アル工場疎開住宅疎開等ニツイテモ、何年ニ一
回カハ必ズ我國ノドコカヲ襲フベキ大地震ニ對スル考慮ハ、空襲及
ビ暴風雨等ノ空カラノ脅威ニ對シテ共ニ、缺クベカラザルモノト思
ハレルノデアル。ソシテ第一ノ耐震構造ニツイテハ、工學ノ側カラ
ノ研究、意見モアルコト、思フガ、無庸贅言こんくりーとノ如キハ
、注意シテ施工サレタモノデアレバマツ大抵ノ地震ニハ安全デアリ、
其他良イ資材ヲ充分ニ使用シテ耐震上ノ理論ヲ採リイレタ工學ヲス
ルコトハ常ニ望マシイノデアルガ、シカシ必ズシモカウシタ思フヤ
ウナ對策ノトレナイ現下ノ狀態デハ特ニ立地ノ問題ガ重視サレナク
テハナラナイト思フ。今回ノ調査ノ結果ヲ要約スルニ、被害ハツネニ
ニ特定ノ場所ニ局限サレテヲリ、適當ニ立地上ノ注意ヲ以テスレバ
、被害ハ數十分ノ一ニモ止メ得タトイフコトニナルノデアル。以下
調査資料中住家被害ノ分布ヲ整理シテソレラノ點ニツイテ簡單ニ述
ベヨウ。

、静岡、愛知、三重三縣ニツイテ、縣當局ノ御厚意ニヨリ各縣下市
町村別被害狀況ヲ知ルコトガデキタノデ、住家ノ被害指數トシテ、
全法戶數ト半濱戶數ノ半數トノ和ノ總世帯數ニ對スル百分率ヲ市町

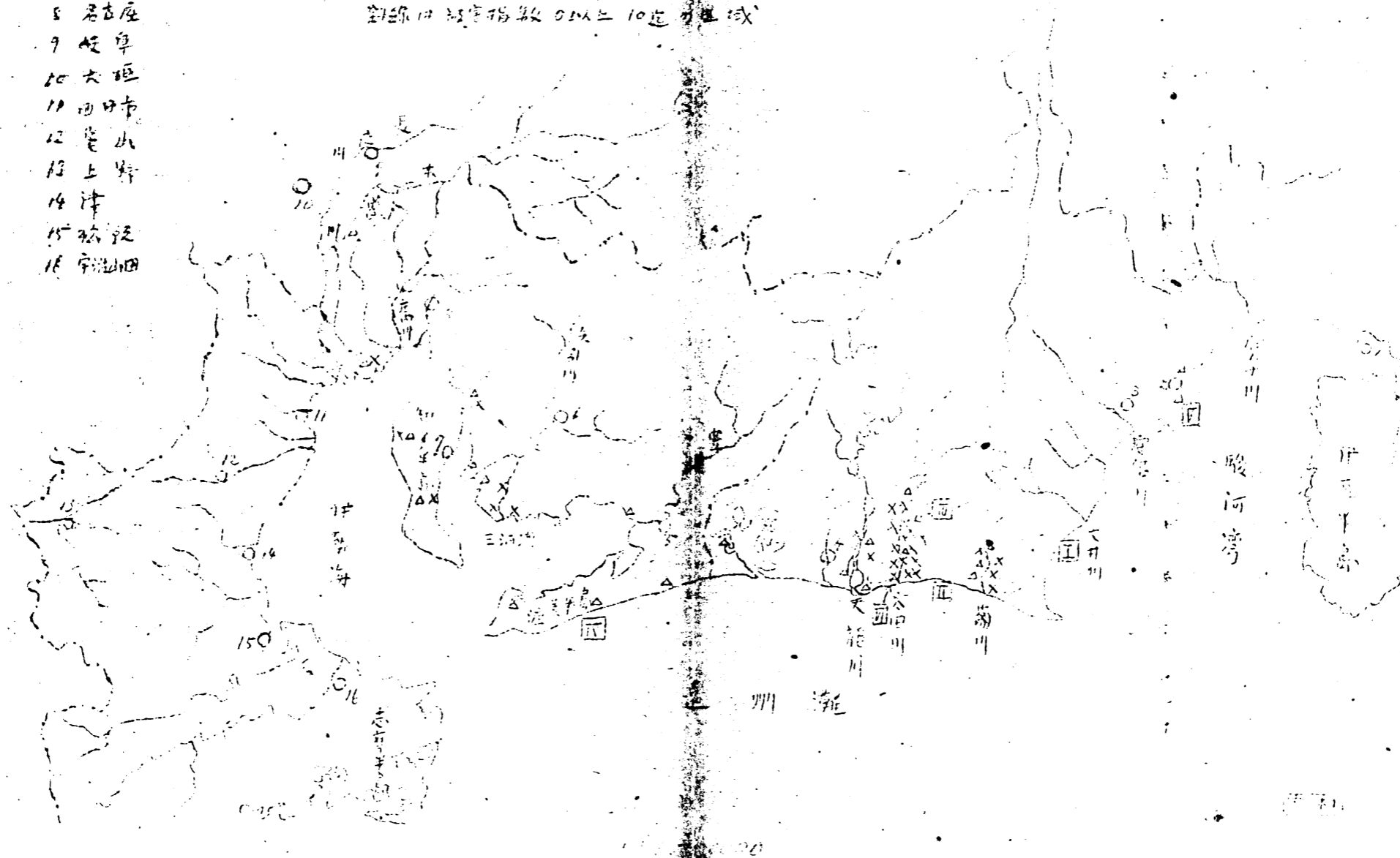
村郡ニモトシテ、震度ノ分布ヲ整理スルコトニシク。(附圖參照)
勿論震度ハ震央カラ遠クナルニツレテ減ズルモノデアルガ、今度ノ
地震ノヤウニ大規模ナ地震デハ、震源モ相當ノ擴ガリヲモツテキル
ト考ヘラレ、愛知・静岡ノ二縣、遠州灘沿岸ヨリ三河灣岸方面位マ
デハ、マツ激震地域トシテホトンド距離ノ關係ニカ、ハラズ各地ソ
ノ地盤ノ性質ニヨツテ被害ヲウケタ様ニミウケラレル。即チ、被害
指數 20% 以上ノ町村ハ殆ドスベテ静岡縣下菊川沿岸及ビ太田川ト
ソノ支流野谷川トノ流域ニ集中シ、次イデ清水市附近、天龍川下流
愛知縣幡豆郡碧海郡西部、知多・渥美二郡ノ一部及ビ海部郡木曾揖
斐三角洲地帯ガ高率デアリ、コトニ最初ト最後ノ地方ハ震央距離ノ
比較的遠イニモ拘ラス相當ノ率ヲ示シテル點ガ注目サレル。又逆ニ
三重縣一帶ノ平野ガ比較的低率ナル點モ注意ニ値スル。要スルニ被
害ハ主トシテ河川ニ沿フ沖積地ニアリ、人工的沖積地タル埋立地ハ
特ニ悪ク、清水市ヲハジメ各地ニ分散セル高率ノ町村モ、夫々ソコ
ニ流レル小河川乃至海岸埋立等ノ被害ニヨルノデアツテ、後ニ述ベ
ルヤウニ同一町村中デモ被害ハソノゴク一部ノ地盤悪キ所ニ集中シ
テキルノデアル。斯ノ如ク河川ノ沖積地ニ被害ノ多イコトハ今マデ
ノ地震ニ於イテモ常ニ經驗サレテ來タコトデアルガ、震度分布ノ問
題特ニ國土計畫的見地カラノ立地問題ニ純粹ニ比較地震學的及ビ地
震地理學的立場カラ基礎ヲ與ヘヨウトスル筆者ハ統計的、數量的ナ
値ヲ以ツテコノ分布ヲ精査シ、證據立テ、更ニ問題ヲ發展サセヨウ

- 1 沿津
- 2 沿水
- 3 静冈
- 4 滨松
- 5 豊橋
- 6 岡崎
- 7 半田
- 8 名古屋
- 9 岐阜
- 10 大垣
- 11 西条
- 12 上野
- 13 津
- 14 松
- 15 沼津
- 16 静冈

東海地方震災調査概報 図

○ 震害指数 100% 以上 (赤十字社)
 ○ 震害指数 50% 以上 (赤十字社)
 × 震害指数 20% 以上 (赤十字社)
 △ 震害指数 10~20% (赤十字社)
 震害指数 0% 以上 10% 以下 (赤十字社)

- 1 津
- 2 水
- 3 岡
- 4 松
- 5 橋
- 6 崎
- 7 田
- 8 名
- 9 岐
- 10 垣
- 11 西
- 12 上
- 13 津
- 14 松
- 15 沼
- 16 静



瀬川

駿河湾

伊豆半島

トネラツテキルノデアル。サテカクノ如ク被害ハ河川ノ沖積地ニ集
中シテラルトシテモ、逆ニスベテノ河川沖積地ガ同一ノ對震危險率
ヲ示シテキルデアラウカ。決シテサウデハナイノデアル。マツ第一
ニ今度ノ地震デ誰デモガ氣付イタクノハ、天龍川流域ガソノスグ東ニ
並行スル太田川ノ流域ニクラバ著シク被害程度ノ輕イコトデアツタ。
ムシロ震央ニ近クアリナガラ伊勢平野ノ各地ノ被害ノ低率ナルコト、
大井川安倍川ナドガソノ沿岸ニ全然被害地ヲモタヌコト等モ注目ス
ベキ事柄デアル。同様ノ事柄ハ實地ニ踏査セル各地ニ於イテモ亦見
ラレタガ之ニツイテハ後ニ若干ノ例ニツイテ述ベル事デアル。天龍
川ト太田川トノ相違ハ何カ。菊川ヤ清水市ヲ貫流スル巴川ト安倍川
大井川等トノ差ハ何カ。明ラカニ之ハ夫々ノ川ノ堆積物ノ相違、地
形學的特性ノ相違デアル。天龍川・大井川・安倍川等ハ所謂荒レ川
デアツテ、ソノ堆積物ハ砂礫ヲ主トスルニ反シ、太田川・菊川・巴
川等ハ比較的水量多ク泥質乃至細イ砂質ノ沈澱物ニ富ンデタリ全ク
ソノ性質ヲ異ニシテキル。コレコソ正ニカ、ル對震危險率ノ違ヒヲ
モトラシタモノデアルコトハ疑ヒナイ所デアル。スデニ鳥取地震（
昭和14年9月）古間地震（昭和18年10月野尻湖附近ノ局部的
激震）ノ通信調査カラ、新潟縣下ノ沖積地ガ、管仲距離ノ關係ヲ考
慮スルトキ他ノ例ヘバ富山縣下ノ沖積地ニクラバ被害ノ對震危險率ノ
高イコトガワカツテキルガ、ソレハ前者ガ主トシテ細砂泥質ノ堆積
層デアルニ反シ、富山縣ノ平野ノ多クガ礫質ノ堆積層ガアリ大

粒ノ堆積物ニアルトイフ懸念カラデハナイカト思ハレルノデアツテ、
全ク同ジヤウナ事情トイハヨウ。伊勢平野ニツイテハ踏査シテ居ラ
ナイシ結論ハサケタイ。人工的埋立地ハ、名古屋市ノ被害ガ殆ンド
全部南部ノ熱田區、港區、南區、中川區ニ集中シテキルコトカラモ
著シク危険ナコトガワカル。又同シ天龍川流域デモ中之町村ノヤウ
ニ周圍ヨリ一段ト高率ヲ示ス所ノアルノハ、或ハ何カ人文的ナ原因
ガ介在スルカモシレナイガ、悉ラクハ地盤ノ相違ガ何カアルコトト
思フ。實地ノ踏査ヲマタナクテハ不明デアル。又同質堆積物デモン
ノ厚サニヨツテ相違アルコトモ推定サレルノデ、今後ハコノ方面モ
調査スル必要ガアルト思フ。之ニツイテハ本所越川理學士ガ磁氣測
量ヲ清水市、遠州川崎町等デ行ヒ調査ヲ進メテ居ラレル。

次ニ實例ニツイテ家屋被害ノ分布ト地盤トノ關係ヲ數字ヲ擧ゲテ
説明シヨウ。

I 清水市 市當局 12 月 20 日集計ノ町内別被害ヨリ家屋ノ被害
指數ヲ算出シ、各區毎ニマトメタ値ト指數 20% 以上ノ町ヲ×印ヲ
以テ圖中ニ記入シク。(第 1 圖) 三保及ビ駒越ニハ殆ンド被害ナク、
清水區及ビ圖中ノ巴川沿ヒノ地帯ガ著シイ高率ヲ示スコトガ明瞭ニ
認めラレル。不二見區ニ巴川河口ニ近イ赤町ヲ除ケバ 5.5% ノ低率
トナル。本府ニツイテハ昭和 17 年 7 月ノ關西地震ニ際シ當時沼津
從務所長ノ調査報告(現勢地盤調査)ノ附録ヲ報告ガアリ、
同ノ報告ニ依リテ調査シタルコトガサケルトモ、三保、駒越

ノ砂嘴ガ安全デアリ、河川沖積地タル巴川沿ヒニ多クノ被害ナシトシテ、
タ點ハ完全ニ一致シテキル。砂地ガ一般木造家屋等ニ對シテハ、
全デアルコトハ、ステニ全般的ナ考察ニ於イテモ述ベタコトデアツ
タガ、サラニナホ一例ヲ加フレバ、富士郡吉原町ハ東海道線富士乃
至鈴川ヨリ夫々數軒内陸ニ位スルガ、今回ノ地震ノ震度ハ富士・鈴
川ニクラベ非常ニ強ク、後者ニ於テハ家屋ノ損傷等モゴク僅カデア
ツタノニ對シ、吉原ニ於イテハ住家ノ全潰2半潰26ヲ出シタ(被
害指數0.5)トイフコトデアル。地形學的ニミルト、富士、鈴川等
ハ丁度海岸ニ生ジタ砂洲上ニアリ、吉原町ハソノ内側ニカコマレタ
潟湖ノ埋リタル沖積地上ニ位スルタメデアルト考ヘラレルノデアル。

II. 榛原郡川崎町 住家被害指數5.6デ、ソノ南ノ相良町ノ5.3ト
共ニコノ附近デノ高率被害地デアツテ、ソノゴク近クノ大井川河口
附近ノ村々ノ被害皆無ナルコトト著シイ對照ヲナシテキル。同郡吉
田村國民學校ノ高橋惣三郎氏ハ、コノ附近ノ狀況ニツキテ率ニ報告
ヲ送ラレタ。ソレニヨツテミルト、ココノ被害ハ全クソコヲ流レル
勝間田川ノ沿岸ニ板限サレ、大井川近ク及ビ海岸ノ砂地ト思ハレル
方面ニハ全ク被害ナク、勝間田川自体ハ又泥質ノ川デアルトイフ事
實ガココニモ亦ミラレルノデアル。(第2圖參照)

III. 小笠郡大淵村 村役場ニテ集計セル村内字別ノ被害ハ第1表ノ
如クデアリ、被害ハ野賀、新井、中新井ニ集中シテキル。第3圖ニ
ミルトル所ニ東大谷川ニ沿フ方面ガカヘツテ、下被害ノ蒙ツラキ

ナイノデアルガ、現地ニツイテミルニコノ川ハ典型的ナ大谷川ニトシ、筆者ガソコヲ訪レタ時ハ全然水ハ流レテキチカツタ。川底ハ町成リ大キイ礫カラ成リ、從ツテコノ川ノ沖積地タル附近モ、水分ヲ含ムコトノ少イ礫質ノ地盤デアツテ、震動モ小サカツタコトト思ハレル。之ニ反シテ野賀ニハ野賀池ガアリソノ南カラ新井、中新井ノ間ニカケテハ地震ノ時地中カラ水ヲ噴キ出シタ所モアルトイフヤウニ水分ニ富ンダ泥質地デアルタメ震動モ大キク、カクノ如キ被害ノ集中ヲ來シタモノト考ヘラレル。

第1表 大谷村被害一覽表

字名	總戸數	住家			非住家		
		全戸	半壊	被害指數	全戸	半壊	被害指數
野賀	58	11	9	2.7	24	17	5.6
新井	55	21	16	5.3	23	29	6.9
中新井	29	2	5	15.5	1	4	10.3
岡原	41	0	1	1.2	1	3	6.1
東大谷	30	0	0	0.0	0	0	0.0
野中	64	0	0	0.0	2	2	4.7
藤塚	60	0	1	0.8	0	0	0.0
濱	73	0	1	0.7	0	2	1.4
雨竜	60	0	0	0.0	0	1	0.8
計	470	34	33	10.8	51	58	17.1

五、東部海岸沿道 第 2 表ニ見ル如ク川岸及向丘ニ殆ンド被害ガ
ナシ然ガ注目サレル向丘ノ海岸ノ砂丘地帯ニ近ク福田方面ニクラベ

第 2 表 福田町被害一覽表

字 名	總戸數	住 家		被害指數
		全潰棟數	半潰棟數	
福 田	885	255	225	41.5
向 丘	40	1	0	2.5
川 岸	45	4	0	8.9
中 島	200	30	80	35.0
下 太	30	8	20	93.3
計	1200	298	325	37.6

レバ大分地盤ノ差ガアルコトト思ハレル。(第 4 圖参照)

V. 周智郡久努西村 第 3 表ニ村役場集計ノ被害ヲ示ス。第 5 圖ノ

第 3 表 久努西村被害一覽表

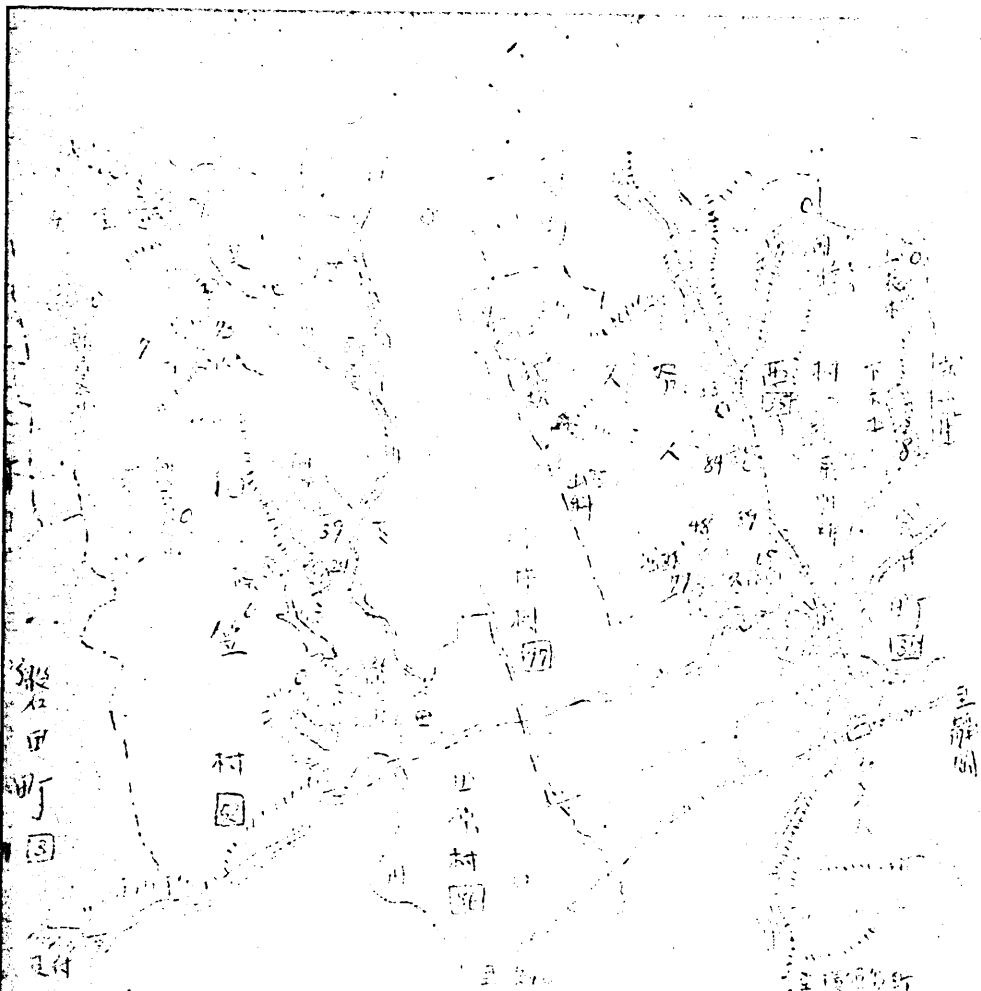
字 名	總戸數	住家全潰	住家半潰	被害指數
久能上	60	17	6	33.3
中	56	43	8	83.9
下	27	22	4	88.9
向	43	25	6	65.1
堀城上	60	24	10	48.3
下	56	39	8	76.8
山科上	46	5	12	23.9
下	16	10	4	75.0
可 睡	37	0	0	0.0
上末本	42	0	0	0.0
下末本 東別所)	43	2	3	8.1
計	486	187	61	44.8

地圖ヲ參考シテ明ラカナ如ク、可睡・末本・東別所等山ツギノ部落ハ全ク被害ヲ受ケテキナイ。震度ノ地盤ニヨル影響ハ全ク明瞭デア
ル。

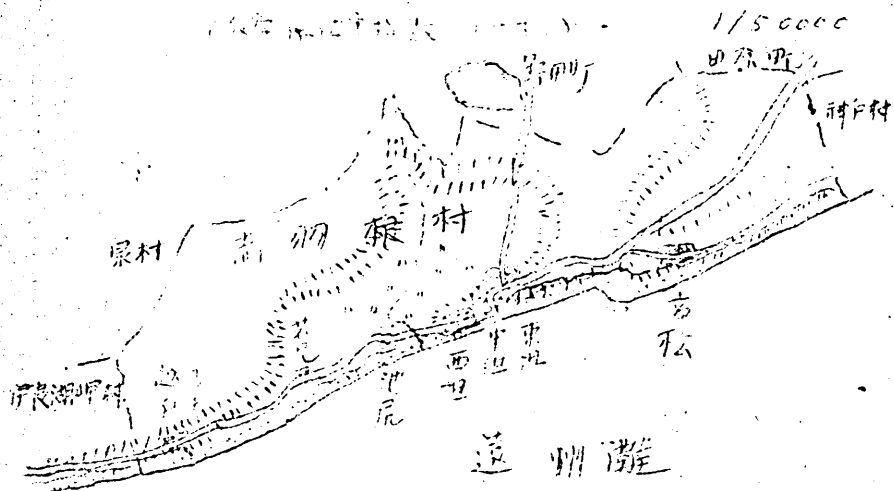
Ⅶ. 磐田郡向笠村 コノ村ハ第5圖デワカルヤウニ西部ハ台地デア
ツテ畑及山林ヲナシ、東半分ハ太田川ニ灌漑サレル肥沃ナ水田地帯
デアリ、部落ハ主トシテコノ沖積平野ヲ占メ里ト稱シ、一部ハ台地
上ニアリ原トイハレテキル。村役場ノ厚意ニヨツテ被害ヲ各字トモ
里ト原トニ分ケテ知ルコトガ出來タガ、原ニハ殆ンド全ク被害ナク
明瞭ニ對照ヲナシテキル。(第4表)

第4表 磐田郡向笠村任家被害一覽表

字名	總戸數	全損	半損	被害指數
笠梅里	68	37	6	58.8
〃 原	23	1	0	4.3
竹ノ内里	77	46	20	72.7
〃 原	31	2	0	6.5
新屋里	34	34	0	100.0
〃 原	25	0	0	0.0
向笠西里	14	3	5	39.3
〃 原	21	0	0	0.0
篠原里	19	2	5	23.7
〃 原	2	0	0	0.0
岩井里	39	0	20	25.6
〃 原	28	0	0	0.0
里合計	251	119	56	58.6
原合計	130	3	0	2.3
總計	381	122	56	39.5



第5圖 山原村と三原町との交通網



第6圖 瀬美河亦物原村小図

1/100000

又里ニ於イテモ向笠西，篠原，岩井ノ三部落特ニ後二者ガ箆梅，竹之内，新屋ニ比シテ低率ノ被害ヲ呈シテキルコトハ，台地ガ迫ツテキテキテ沖積ノ厚サガ相違シテルトイフ様ナコトガアルノデハナイカト考ヘラレル。

Ⅵ. 渥美郡赤羽根村 被害指數ハ 5.8% デアルガ，太平洋ニ面シタ 20 ~ 30 米ノ崖上ノ台地ニ位スル村デアリ（第 6 圖參照），台地ニ於イテハ一般ニハ被害ハ少イハツナノニ相當高率デアルノハ或ハ崖縁ノ影響ガ危険率ヲ増シテキルノデハナイカト疑ハレタノデ實地ニ踏査シテミタ。村役場集計ノ數字ハ第 5 表ノ通りデアツテ，西組及ビ池尻ガ特ニヒドク，越戸・若見ハ背後ノ古生層ノ山ガ迫ツテキル堅固ナ地盤ヲナシテキルタメニ被害ガナイノデアルト思ハレル。

第 5 表 赤羽根村被害一覽

字 名	總戸數	住家全潰	住家半潰	被害指數
高 松	278	7	6	3.6
東 區	129	0	3	1.2
中 區	135	1	4	2.2
西 區	163	25	14	19.6
池 尻	122	8	15	12.7
若 見	186	0	8	2.2
越 戸	99	0	0	0.0
計	1112	40	50	5.8

池尻ノ被害ハ北東部ノ川ニ近イ水田方面デアツテ，他ノ部落ガ概ネ沖積台地上ニアルノニ對シ當然ノ結果ト考ヘラレルガ，赤羽根東區

中區ニ對シ西區ガ著シク高率デアルコトハ、地盤ガ殆ンド同一デア
ル點カラミテ、ソコガ崖縁ニ近イ影響デハナイカト思ハレル。特
ニソノ全濱25戸中24戸マデガ、ソコデ最モ崖縁ニ近ツイテキル
街道沿ヒノ家デアル點ガ注意サレタ。沖尻ノ方デハ崖ニ近イ部分ニ
被害ガナイノデ、多少西區ヨリハ崖ノ高サガ低イトハイヘ一寸問題
デアリ、或ハ他ニ何か原因ガアルノカモシレナイガ、コノ崖ノ影響
トイフ點モ考慮ニ値スルコトト思フ。同ジャウナ例ハ静岡縣榎原郡
地頭方村ツ字ニテ地頭方ヨリ御前崎ヘ至ル街道上ニアル遠渡部落ニ
於テモ見ルコトガデキタ。即チコノ部落ノ一部ハ海岸ノ砂丘ニ沿ツ
テアリ、他ハソノ濱カラ狭イ水田(潟ノアトカ)ヲヘダテ、ソビエ
ル崖上ノ台地上ノ街道沿ヒニアルノデアルガ家屋ノ被害ハ全ク後者
ニ集中シテキタ。他ニハナホタシカナ例ヲ見ナイガ今後ノ研究ヲ期
シテキル。

以上見テ來タ點ヲ綜合シテ結論ヲノベルナラ、對震立地ノ條件ニ
就イテハ少クトモ一般ノ木造家屋ニ關シ

1. 泥質沖積地(人工的埋立ヲ含ム)ハ危險デアル。
2. 砂礫質沖積地ハサシテ危險デナイ。
3. 台地其他堅イ岩盤ク地ハ安全デアル。
4. 但シ台地等ノ緩邊、崖縁、傾斜ケハシキ地ハ疑問デアル。
5. 海岸ノ砂洲砂丘等ハ安全デアル。勿論傾斜大ナル砂丘斜面ハ
避ケナクテハナルマイ。

等ノコトガ言ヒ得ルノデアツテ、水田ヲ灌漑シテハ工場ヲツクルナ
ドハ、食料増産ノ見地カラモ悪ハシクナイシ、耐震上モキハメテ危
險デアリ、コトニ塵埃等ニヨル運立ノ如キハ最モヨロシクナイ。台
地ヲキリクバシテ半分盛土半分キリトリノ部分ニマタガツテノ敷地
ナドモ、兩方ノ震動性能ガチガフタメニ特ニ被害ヲウケル危険ガ高
イト思フ。其他實際ニワタツテ注目スベキ事柄ハ多々アルト思フ。
實際家ノ考慮ヲ望ム次第デアル。

マタ東海・近畿地方ノ國土計畫的立地條件カライヘバ菊川・太田
川流域ハあくマデ今穀倉トイハレテキル通りニ水田トシテノコシ、
出來ウベクンバ耕地整理ヲ行ヒ、村落ハ成可ク安全ナ所ニウツシ、
農村機械化ヲ實施シテ遠方カラ耕作ニ出テモヨイ様ニシタイ。工場
ハ成ベク山間又ハ台地上ニウツシ、或ハ海岸ノ砂丘地帯ニ暴風ニ對
スル考慮ヲ充分ニハラツタ上デ建設シタラト思フ。防空上地下ニ埋
メルトイフナラ之モ耐震上ハ適當ニ注意サヘハラヘバカヘツテ安全
ナノデアル。勿論建築上又敷地設定上ノ不合理ガ除カレテキナクテ
ハ問題ニナラズコノ點ニツイテハ本所野田囑託・金井技師等ガ研究
サレテキルノデアルガ、相當貧弱ナ建物デモ、實際地盤ヨクテ震度
ガ弱クサヘアレバ問題ニナラズ、アタカモ爆彈ノオチル所ノキマツ
ツテキル爆撃ノヤウナモノデ、ソコヘワザワザ重要施設ヲモツテ行
クトイフ愚ハ何トシテモ避ケナクテハナラナイト思フ。

地盤ノ問題モ沖積地ノ土質ノ問題、含水量ノ問題、ソノ厚サノ問

題名ナホ今後ノ研究ニマダナケレバナラナイ點ガ多ク、實ハナホ決定的ナコトノ言ヒウル範圍モカギラレテキルノデアルガ、今回地震調査ノ概報ヲ出スニアタリ、問題ノ國家的重要性ニカンガミ、アヘテ意見ヲ開陳シタ次第デアル。

終リニノゾミ本調査ニ御援助下サツタ静岡・愛知・三重各縣官民各位、特ニ静岡縣警防課、同地方課、愛知縣地方課、三重縣土木部、縣下各町村役場、ニ感謝スル。又出張中ノ便宜ヲ與ヘラレタ静岡翻候所長島村鼎氏御前崎測候所佐藤技手豊橋市中村久内氏、友人名古屋軍需監理部山本健助中尉ニ感謝スル。ナホ本調査ヲ行フコトガ出來タノハーツニ所長代理岸産教授研究室主任坪井教授ノ御配慮ニヨルモノデアリ、特ニ坪井教授ノ常ニ激ラザル御激勵ト御指示トニハ厚ク謝意ヲ表シタイ。

以上

(昭和20年1月18日)